

測地データを用いた内陸地震の長期予測

西村卓也（京都大学防災研究所）

ポイント

- 西日本と北海道を対象に、測地（GNSS）データから内陸（地殻内）地震の発生確率の試算を行った。
- 実際の地震活動と比較して予測モデルの検証を行い、西日本では有効性が明らかになった。
- 北海道における試算では、発生確率の高い場所で地震がより多く起こる傾向は確かめられたものの、絶対数が過大となる問題点も明らかになった。

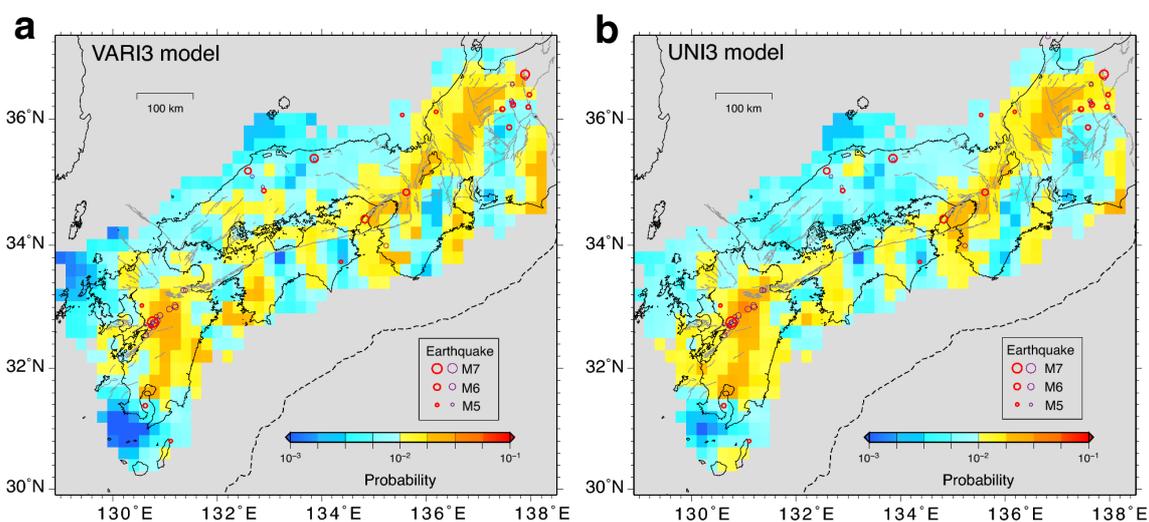


図 1. GNSS データから計算される西日本の地殻内地震の発生確率. カラスケールは 30 年間にマグニチュード 6 以上の地殻内地震が発生する確率を表す. (a) 地震発生層厚さと剛性率の空間変化を考慮したモデル. (b) 地震発生層厚さと剛性率を一様としたモデル

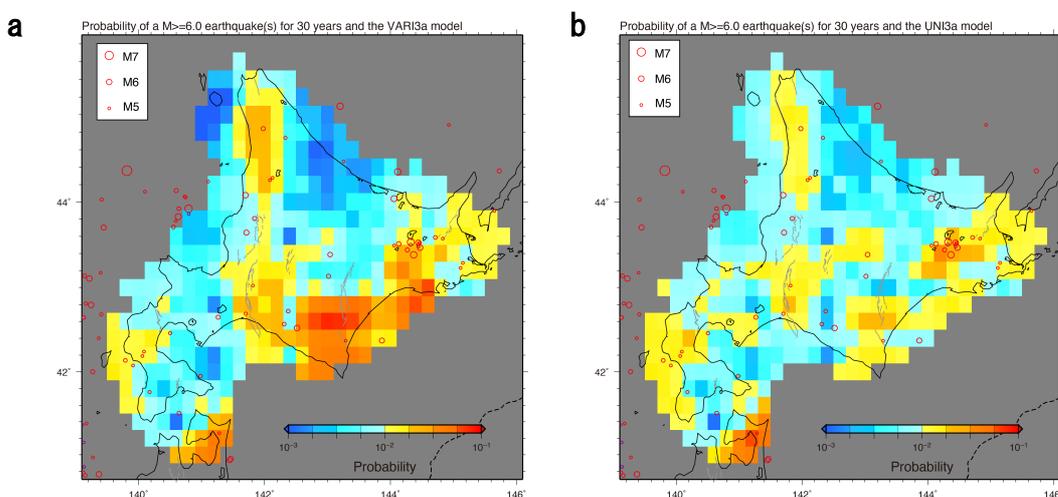


図 2. GNSS データから計算される北海道の地殻内地震の発生確率. それ以外は図 1 と同じ.